

平成 29 年度 ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立竹枝小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫
☐ 中学校 ☐ 中高一貫 ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）

所在地 〒709-3122

岡山県岡山市北区建部町吉田1504

E-mail takeedas@city-okayama.ed.jp

Website <http://www.city-okayama.ed.jp/~takeedas/>

児童数 男子16名 女子25名 合計 41名

児童の年齢 7歳～12歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校は目の前を岡山県の代表的な 1 級河川である旭川が流れ、里山に囲まれた豊かな自然環境に恵まれ、さらに「子どもや学校は地域の宝である」という人々の思いをいただいている。

こうした人々のすばらしさや自然の豊かさを本校教育の特色として生かすため「人、自然、未来とつなごう 竹枝っ子」を学校教育目標として、ESD 教育を中核に据えて進めている。

具体的には、環境学習、食農体験活動を柱に ESD 教育を進めている。

【環境学習】

期間：5 月 場所：竹枝小学校 学校田（冬水田んぼ）

参加対象者： 全校児童 41 名

（内容）

・本校では、学校田に冬期も水をため、水生昆虫やヤマアカガエル、ニホンアカガエルなどの希少生物の保護に取り組んでいる。そして、毎年 5 月に学校田に生息する生き物調査を全校児童で行う。水田の生き物の種類や数などを調べることにより、学校のまわりの環境について知ることができる。この生き物調査では、岡山理科大学の先生による生き物についての話を聞くことができ、充実した学習となっている。



田んぼの生き物調査（５月１９日）

【食農体験学習】

○米作り

期間：５月～１１月 場所：竹枝小学校学校田 参加対象者：全校児童４１名

（内容）

- ・今年も田植え、草取り、稲刈り、脱穀などの活動を行った。米を作る活動を通して、稲の成長の様子について知るとともに、働く人の苦労や工夫についても理解することができた。



田植え（６月１４日）



稲刈り（１０月２７日）

○キウイ作り

期間：４月～２月 場所：竹枝小学校前キウイ畑 参加対象者：全校児童４１名

（内容）

- ・毎年、竹枝小学校前のキウイ畑でキウイを育てている。今年も、６月にキウイの摘果作業、１１月にキウイの収穫作業を行った。また、適宜草取りも行った。全校児童が参加し、今年もキウイをたくさん収穫することができた。



摘果作業（６月２８日）



収穫（１１月１５日）

◎米や野菜、果物などを地域のボランティアの方々の指導を受けながら育てた。作物を育てる活動を通して、児童は収穫の喜びを味わうとともに、食べ物や生産者に対する感謝の気持ちをもつことができた。

【ふるさとづくり発表会】

期間：2月24日（土） 場所：竹枝小学校音楽室 参加対象者：全校児童41名
（内容）

- ・生活科の発表（1・2年）、総合的な学習の発表（3～6年）等を行った。
- ・今年度の活動についての発表を行い、一年間の学習の成果や課題、やってみたいこと、ふるさと竹枝について考えたことなどを、児童、教職員、保護者、地域の人、大学関係者等がグループに分かれ、話し合いを行った。地域の自然や環境、歴史、文化などについて考えるとともに、地域を大切にしようとするよい学習の場となった。

2. 取組の成果

・「環境学習」では、稲刈りをした後の田んぼに水を入れておく「冬水田んぼ」に取り組んだ。水辺の生き物やアカガエルの産卵場所の確保などを目的の一つとしている。アカガエルの産卵が増えていることも確認され、児童は自分たちの取り組んでいることに充実感をもっている。

・「食農体験学習」では、児童全員に「自分たちで米や野菜、果物を育てる」という目的意識をもたせるようにした。地域の方々、保護者とともに様々な農業体験を行うことで、自然を相手に作物を育てることのたいへんさに気付くとともに、食べ物を大切にしようとする態度が少しずつ身に付いてきた。また、協力してくださった地域の方々に対する感謝の気持ちをもつことができた。

3. 今後の課題（次年度への引継やより充実した内容にするために）

・今年も竹枝地区の豊かな環境を生かして、環境学習や食農体験学習に取り組んできた。これからは、自然や生活の持続可能性やふるさと竹枝を愛する態度を育てるためのより効果的な学習方法について考えていく必要がある。

・児童に竹枝地区に生息する生き物についての知識を習得させるとともに、自分のまわりのものや出来事に興味をもち、自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、問題を解決していこうとする態度をさらに育てていかなければならない。

・ふるさと竹枝のよさに気付かせ、ふるさとを大切にする心をさらに育てていくようにしたい。

※報告様式は別途データでの提出もお願いします。

※本報告書は原文のままPDF化し、HP等に掲載します。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	□ 3. 防災	■ 4. 生物多様性
■ 5. 気候変動	□ 6. 国際理解、文化多様性	□ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	□ 8. 人権・平和
□ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 本校独自にふれあいタイムの時間を設け、その時間に活動している。)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

＜ユネスコスクール年次報告書＞

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

地球規模の諸問題に対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すユネスコスクールのねらいを教育課程に位置づけるため、本校では総合的な学習の時間を中心に特に「環境学習」に取り組んでいる。また指導内容や指導方法の改善のため次の2つの観点から工夫改善に努めている。

- ・ 人格の発達や、自律心、判断力、責任感などの人間性を育むこと
- ・ 他者との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むこと

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・ 各教科・領域の年間指導計画に位置づけ、計画的に取り組む。
- ・ 全校で取り組む活動を決め、学校全体で組織的に活動する。

☐環境学習

生き物調査

生き物の里づくり発表会

☐食農体験学習

米作り…田植え、稲刈り、脱穀、収穫した餅米を使つての餅つき

キウイ作り…収穫作業

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学校評価アンケートを毎年実施し、ユネスコスクールとして取り組んでいる環境学習や食農体験学習、さらには地域協働による様々な活動に評価をいただいている。

評価質問項目

- ・ 学校に行くのが楽しい→100%の子どもたちが肯定的な意見
- ・ 地域の行事に進んで挨拶する・地域の行事に参加している→9割を超えている。
- ・ 今住んでいる地域や岡山市の自然や歴史に興味や関心がありますか。→肯定的な意見が多い。

⇒これらから地域協働による学校づくりへと向かいつつあると感じている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。
(2 0 0 字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

活動成果の発信方法

活動の様子は随時、HP や学校だよりにて発信している。

発信により得られた効果

効果としては、学校の取組を広くお知らせすることで学区内外の方々に本校の取組を知っていただくことが出来る。また、開かれた学校作りへの一助となっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）
(2 0 0 字程度)
※チェック事項 2-3 に対応

「竹枝を思う会」

2006 年、子どもたちにふるさとの魅力を伝えたい、子どもたちにふるさとへの愛着と誇りをもって育ってほしいという思いを共有し、小学校と地域住民（竹枝学区の区長さんをはじめ、地域住民の方々、PTA の OB、及び保護者）が一緒になって結成。本会より様々な自然体験学習や食農体験活動にご支援をいただいている。

「岡山理科大学」

生き物調べや生き物の里づくり発表会、旭川かいぼり調査など児童への学習支援をいただいている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

特になし

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

環境学習

毎年、冬水田んぼにおける生き物調査を続けていることで、水生昆虫やアカガエルなどの個体数の経年変化を子どもたちは学ぶことができる。ヤマアカガエルやニホンアカガエルなどの希少生物やその他の生き物の増減を知ること、環境の変化を知り、自然環境への関心を高めることができている。

食農体験活動

学校田や畑での米作り、野菜作り、キウイ作り等の指導を地域住民（竹枝を思う会「わかたけ会」）の方々を講師として児童への支援をいただいている。このことによって、子どもたちは地域の人々への感謝の気持ちや「ふるさと竹枝」への愛着と誇りの気持ちを育てている。

- （3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

環境学習

- 5月：生き物調査
- 6月：ホタル鑑賞会（水辺の楽校として実施）
- 7月：夏キャンプ（　　　　　〃　　　　　）
- 11月：かいぼり調査（　　　　　〃　　　　　）
- 2月：生き物の里づくり発表会

食農体験活動

- 5月：サツマイモ苗植え
- 6月：田植え
- キウイ摘果作業
- 10月：いいそ作り、稲刈り
- 11月：脱穀、キウイ収穫
- 2月：キウイ剪定作業